

【開催報告】 第 1、2 回 PPI 対話ラボ

～ 実態と価値を知り、つながり、広げるための対話の場をつくる ～

2026 年 9 月 18 日

株式会社マクロミルケアネット

近年、医学・医療分野において PPI（Patient and Public Involvement：患者・市民参画）の重要性が認識される一方で、「患者の声が十分に社会へ届いていない」と感じる場面もまだ少なくありません。また、PPI は専門知識を持つ一部の人による特別な活動といったイメージも根強く存在します。

こうした課題に対し、患者と医療、社会をつなぐ取り組みとして、患医ねっと様、くすり和生活様、株式会社マクロミルケアネットの 3 者共同主催による「PPI 対話ラボ」を企画・開催いたしました。本企画は、立場を超えて PPI に関心のある仲間が出会い、学び合い、将来的な共創活動へつながる土台づくりを目指すものです。

■ 第 1 回 PPI 対話ラボ（2026 年 8 月 29 日開催） テーマ：「PPI に関して感じている課題」および「PPI に期待すること」

患者やその家族の方（PPI 未経験者を含む）を対象に、3 グループに分かれて意見交換を実施しました。患者やその家族が当事者として抱えるリアルな課題として、主に以下の意見が挙げられました。

- **心理的距離と情報の格差**：医師と患者・その家族の間には圧倒的な知識の壁が存在し、対等な対話を阻む距離感がある。
- **患者の孤立化**：そもそも患者会がないことや患者会への非加入者の増加により、社会とのつながりが希薄化・孤立化が進んでいる。
- **意思決定における一方通行感**：Shared Decision Making（SDM：共同意思決定）の概念は広まりつつあるものの、実情としては治療方針の決定権が医師側に偏っていると感じられる。



第1回対話ラボ：グループ対話の様子

■ 第2回 PPI対話ラボ（2026年9月9日開催） テーマ：「PPIを進める上での困りごと」および「円滑に進めるための工夫」

製薬企業関係者、医療従事者、研究者等を対象に実施しました。患者用資材や同意説明文書の患者レビュー、ジャーニーマップ作成等への協力、製薬企業での講演などの具体的事例をもとに、現場の実情が議論されました。

- **PPI推進体制の二極化**：外資系企業を中心に「Patient Centricity」等の専門部署の設置が進む一方で、本国（本社）の指示に伴う形式的・画一的な運用にとどまっているケースも散見される。
- **企業全体としてのPPI推進の難しさ**：PPI活動は直接的な利益に結びつきにくく、法的な義務付けもないため、個人の意欲に対して企業・組織全体の動きが鈍くなりやすい。
- **リーダーシップの重要性**：PPIに積極的に取り組む企業とそうでない企業との差は、トップマネジメントのPPIに対する意識やコミットメントの有無に大きく依存している。



第2回対話ラボ：グループ対話の様子

■ 今後の展望（第3回 PPI 対話ラボのご案内）

第1回では「患者・家族の視点」、第2回では「企業・医療従事者・研究者の視点」から、PPI に対するそれぞれの思いや課題を抽出いたしました。

次回の第3回 PPI 対話ラボ（2026年10月22日開催予定）では、これまでの参加者が一堂に会し、立場を超えた相互対話を通じて、更に意見交換を重ねる予定です。是非、ご注目、並びにご期待ください。

マクロミルケアネットについて

名 称： 株式会社マクロミルケアネット
代 表 者： 代表取締役社長 徳田 茂二
所 在 地： 東京都港区港南2-16-1 品川イーストワンタワー11F
設 立： 2014年12月
資 本 金： 4,500 万円
主な事業内容： 医療専門の市場調査事業
ウェブサイト： <https://www.macromillcarenet.jp/>

【共同主催団体】

- 患医ねっと（代表 鈴木信行）： <https://kan-i.net/>
- くすりと生活（代表 鈴木信行）： <https://med-and-life.jp/>

本件に関するお問い合わせ先

株式会社マクロミルケアネット セールス&ビジネス開発部 事業開発 G 久米

MAIL: contact@macromillcarenet.jp URL: <https://www.macromillcarenet.jp/>